

二十二月の保育 及川ふみ

この月に入つてからも暖い日もあつて外遊びによい時もあるが、大體としては屋内保育の多い季節になつて來た。自由遊びの様々も考へなければならぬ。集團の遊びに或は個人個人の遊びなきかぞへあげてみるに、毬つき、風船つき、羽子つき、繩遊び、飛行機飛ばし、輪なげなきは幼児たちの興味もつきないし、又身體の全身のよい運動でもある。又繪カルタ、双六、なきも簡単な方法ですることよく大勢の幼児たちが同時に遊ぶ事が出来る。又お正月、クリスマスなきを控へて、この月に入ればすぐにその支度にござりかゝらねばならない。

第一週 十二月二日——七日

唱歌遊戯 お正月
双六つくり

新聞紙全紙大を臺紙として、一つづゝの畫の大きさは畫用紙十六切大にする。十二三枚の畫をかいて貼り上

げるのであるから學期の終りまでに出來上らせる様に一枚一枚丁寧に畫かせる。年少組であるから畫柄は簡單なものを選ばなければならぬ。例へば一枚に象を二三匹かゝせ、次の一枚には兎を數匹、次の一枚にはヒヨコばかり、次の一枚には蝶々のみさいふ様に双六に貼り合せによい様にして一度に一枚づゝ畫かせる。年長組でもあれば、動物双六、花双六、乗物双六、お菓子双六なきも同種類の様々のものを畫くのも面白いことであるが、年少組ではまだく畫柄の種類が豊富でないからいろくのものゝ交ぜ合せで作る。かりにウサギ、チユールツプ、キシヤ、ヒヨコ、ヘイタイサン、ヒカウキ、テフテフ、オジヨウサン、ジドウシヤ、カメ、ダルマサン、コツキなきの幼児に畫けそうな畫材をきめておくのも豊富に材料を考へ出されぬものにはよいかもしれない。臺紙は包裝紙をつぎ合せて新聞の全紙大にして貼るのであるが一枚づつの畫の周圍を赤、黄、綠、茶色なき縁ざりにするに輪廓がはつきりしてよい。大體の双六の計畫を話し、或は具體的に今までの幼児の自由畫を集めて作つておいたものなきを見せるに、幼児たちの双六に對する興味を誘導する事にもなる。

火

ヌリエ ヒカウキ

新聞紙むしり(紙粘土でサイコロを作るため)

水

お話 鼠さんのお引越し(フレールベル賞入選童話)

双六の繪

木

唱歌遊戯 お正月

新聞紙むしり

金

お話 觀察 はなし 霜

双六の繪

土

紙粘土 サイコロ作り

第二週 十二月九日—十四日

月

唱歌遊戯 凧

双六の繪

火

お話 逃げない小鳥(フレールベル賞入選童話)

サイコロの色塗り

水

双六の繪

木

唱歌遊戯 凧

金

ヌリエ ダルマ

お話

双六の繪

土

紙粘土 ダルマ作り

第三週 十二月十六日—二十一日

月

唱歌遊戯

サイコロの數書き

火

お話

双六の繪

水

ダルマの色塗り

木

唱歌遊戯

双六つくり

金

お話 皇太子様御誕辰

双六つくり

土

保育終了式の集り